北九州市議会議員　大久保むが　市政レポート

MUGA TIMES

No.15
2012年 秋号
【発行日】2012年10月29日
【発行人・編集人】大久保むが

視察レポート　三越伊勢丹ソレイユ

三越伊勢丹デパートが設立した特例子会社の視察を行ってきました。

店頭での接客・提案を主業務、伝票へのスタンプ押し・贈答用リボンの作成・箱やラッピングなどの下準備を付帯業務と位置づけ、付帯業務に関して、障害者に出来る仕事を切り出して行っています。

これまでデパートでは、ラッピングの下準備などのいわゆる付帯業務が、業務時間の半分近くを占めており、結果として接客などへの影響があったそうです。こちらの特例子会社では障害者が持っている「高度な作業の精密さ」という特性を活かして付帯業務を行うことにより、お客さんに渡す包装などの精度が向上し、デパート内から高く評価されるようになりました。会社発足後10種類程度しかなかった仕事が、80種類を超えるようになりました。

また切り出した仕事をワークシェアすることで、店頭の販売員はより接客に専念できるようになり、毎月トータルで3000～4000時間あった残業を減らす事ができたといいます。

当初は仕事の精度に疑問を持っていた社員も、こうした結果を示すことで、徐々に障害者に対するイメージや見方が変わり、いまでは感謝のメールが届くこともあるそうです。

そしてこの会社では、重度の知的障害者を多く雇用している点が特徴です。彼らは仕事をする上で、自分達で独自のマニュアルを作っています。彼らの特性を活かし、働き、それが店頭で働く社員から感謝され、更なる働き甲斐になっている。会社としては社会貢献でもあり、社員の負担軽減にもなり、ワークシェアリングや、企業イメージの向上にもつながるのです。

最後に、「特例子会社の使命として、普通の企業では雇用しづらい重度の知的障害を持った方々をなるべく多く雇用しなければならない。そして彼らは十分業務ができる人材であり、知的な障害を持っているから、また自閉症だから仕事ができないなんてものは偏見です。企業では変化が当たり前、時間は掛かるが仕事の手順をしっかり教えれば、きちんと変化に対応できる。最初から無駄だと思いこみ教えていない、だから出来ない。そういう状態だから、やっぱりできないんだ、と勝手に判断している。障害者も働く力があるし、信じている。」という社長の言葉が印象的でした。

2012年9月定例会が行われました

平成23年度の決算を行う、平成24年度9月定例会が開催されました。

決算議案28件、条例議案6件、一般議案8件に、補正予算議案が4件の合計46件の議案が審議されました。

一般会計決算で、歳入が約5,230億円、歳出が5,186億円となりました。

特別会計は歳入約4,768億円、歳出が4,683億円となりました。

議会の冒頭で、暴力団暴力行為追放に向けた決議が行われ、市内で発生した暴力団と思われる一連の傷害事件や、脅迫事件について、一刻も早い犯人の検挙と、市民の安全な生活を守るために一層の取り組みを行うよう当局に対して要望を行いました。

一般質問を行いました！
詳しくは中面に！！

平成24年9月

一般質問

「見る」ということに重点を

大久保　本市が平成23年9月に策定した「北九州市スポーツ振興計画」において、本市が目指すべき姿として「する人」「見る人」「創る・支える人」に着目した目標を定めました。「見る」スポーツに対応する施設の整備などに取組むとされています。しかしながら、今回の整備方針（案）では、この「見る」という視点がコンセプトの3番目に下がり、最も重要なコンセプトが「にぎわいの醸成」に変わっています。

新球技整備の目的が「にぎわい」を作るためと受け取れ、当初の目的の「見る」という視点が後回しになっている感があります。新球技場は当初の「見る」というところに重点を置くべきであり、見やすく迫力のあるスタジアムであれば必然的に観客は増えていき、その結果として賑わいがもたらされるのではないかと思います。新球技場整備にあたっては、観客が利用しやすく、夢と感動を共有しながら観戦できるような「見るスポーツ」に重点を置き、周辺の施設を有効活用するなど、極力シンプルな構造にするべきであると考えます。市の見解を求めます。

新球技場建設について

市　長　新球技場は、ご指摘のとおり「見る」スポーツの機会の提供を主な目的としています。見やすく迫力のある観戦環境を整えることが基本です。

事業計画の策定に当たりましては、3つのコンセプトを念頭に併せて、建設費縮減や、維持管理の効率化、さらには、周辺施設との機能分担についても考慮しながら進めてまいります。いずれにしても、新球技場が、「選手と観客が一体感を味わえ、躍動感や臨場感に溢れるスタジアムである」。そのように評価されるよう、事業を進めてまいりたいと思います。

環境先進都市への道は足元から

大久保　北九州市は環境問題を克服し、これまでの取組みで蓄積された技術やノウハウ等を活かし、国のプロジェクトである環境未来都市及び国際戦略総合特区においてダブルで選定を受けました。現在では世界に誇る環境先進都市へと変貌を遂げるという明るい話題の一方で、日々の生活や、企業を取り巻く様々な環境問題が顕在しています。八幡西区の築地地区にある公共岸壁に野積みされている石炭などから、大量の粉塵が飛散し、近隣の多くの企業に被害をもたらしているというものです。多くの企業が集まり従業員の方々が働いている築地工業団地の現状についての市の認識を伺います。また港湾施設を管理している立場として、関連企業とも協議し、今の状態を早急に改善するために対策を講じるべきと考えます。さらに現時点の対策ももちろん重要ですが、10年後も20年後もこの築地町が現在の状況と変わらないということであってはならないと思います。抜本的な解決に向けて、中長期的な対策を講じるべきと考えますが、見解を伺います。

市　長　八幡西区築地町の環境問題について、築地町にある黒崎ふ頭においては、古くから石炭やコークスの取扱いが行われています。海外や国内各地から入荷したものを、公共の荷さばき地及び民有地の貯炭場で一旦保管後、背後の地場企業をはじめ、近傍のセメント工場や製鉄、鋳物工場等に出荷しています。

荷さばき地周辺で石炭荷役を行っている事業者は、環境局から立ち入り検査や改善指導を受け、道路との境界にL型擁壁を設置するなど、事業者自ら防じん対策に取り組んでいます。しかしながら、港湾管理者としては、依然として粉じんの飛散が見られ、周辺企業に悪影響を与えていることは認識しております。

荷役を行っている事業者は、指導に基づき必要な飛散防止対策を実施してきており、港湾施設管理条例に基づく許可基準に合致しています。このため、港湾管理者としては、荷さばき地の使用許可を取り消し、保管している石炭等の撤去を求めることは難しいと考えています。

そこで、防じん対策に加え、事業者と調整を行い、当該地に防じんネットの設置など、官民で連携し、更なる改善に向けて取組んでまいりたいと考えています。さらに、築地町の中長期的な環境改善に向けては、防じん対策の効果を見ながら、ふ頭や貯炭場の再編なども課題として捉え、検討を進めてまいります。

八幡西区築地町の環境問題について

体験してみなくちゃわからない

◆ダイヤログインザダーク

東京の青山にある「ダイヤログインザダーク」という施設に行ってきました。

『参加者は完全に光を遮断した空間の中へ…暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障害者）のサポートのもと探検し、様々なシーンを体験します。

視覚以外の感覚の可能性と心地よさに気づき、そして人のあたたかさを思い出します』…（ダイヤログインザダークHPより）

何の施設かと言いますと、全く光の無い状態の中で白杖を頼りに空気を感じ、臭いを感じ、物を触り、音を感じ、前へ歩き、橋を渡り、椅子に座り、買い物をする。つまり全く目が見えない状況を体験するための施設です。案内をして下さったのは視覚障害者の方で、むしろ暗闇の中では彼のリードがなければ私たちは何もできない状態でした。

普段見えている物が見えなくなったら、視覚障害で生活をされている方々が町へ出る事の恐怖、不安。そしてこうした体験を通してこその気付き。

現在の行政の支援が本当に障害者の視点に立っているのか、もっと多くの人が、障害者の視点に立つことができれば、もっと世の中は変わるのではないのか？私にとってこの体験は本当に衝撃的で、真っ暗な状況で体験した事は記憶に深く刻まれ、こうした「体験」の重要性を痛烈に感じさせられました。

ダイヤログインザダーク
一見どこかのバーか、レストランのような雰囲気をもった場所です。
ダイヤログ：対話　インザダーク：暗闇の中で
直訳すると、暗闇の中での対話　なのだそうです。

◆視覚障害者支援者研修会

北九州市には、先のようなエンターテイメントとして視覚障害を体験できる施設はありませんが、視覚障害者の支援を学ぶ上で行われる支援者研修会でこうした体験をする事が出来ます。

先日、同僚の奥村直樹議員（門司区選出）と共に、研修会に臨んできました。

北九州市小倉北区の総合保健福祉センター（アシスト21）の中にある福祉用具プラザ北九州。ここでは、アイマスクをして視界のない状態で施設内を歩行し（写真）、ガイドする側がどのような声かけを行うと相手が安心して次の一歩を踏み出すことができるか、またガイドされる側は、なんと言ってもらうとまわりの状況が把握できるのか、お互いが初めての中で一生懸命に声かけを行います。僅かな段差で躓いたり、点字ブロックの有難みを感じたり、体験しなくては気付かないことを再び思い知らされました。

当たり前の話ですが、例えば、歩道に自転車・看板などが置かれていても私たちは簡単によける事ができるので、さほど邪魔にならないと感じます。しかし、障害者や車椅子などで移動する場合はとても危険なものがあります。言われれば当たり前ですが、多くの方がこうした体験をし、この事が危険だと感じれば自転車や看板だけでなく、さらに多くの気付きによって「何か」が変わるのではないかと思います。

市の職員の方も、障害者を雇おうとしている人事の方も、そして私たち議員もこうした体験を通じて「何か」を感じておく必要があると思います。

この「何か」とは、人によって様々であると思いますが、こうした体験の重要性を訴え、住みやすい街を作る1つのきっかけにしていきたいと思います。

7・8・9月活動記録

7　月

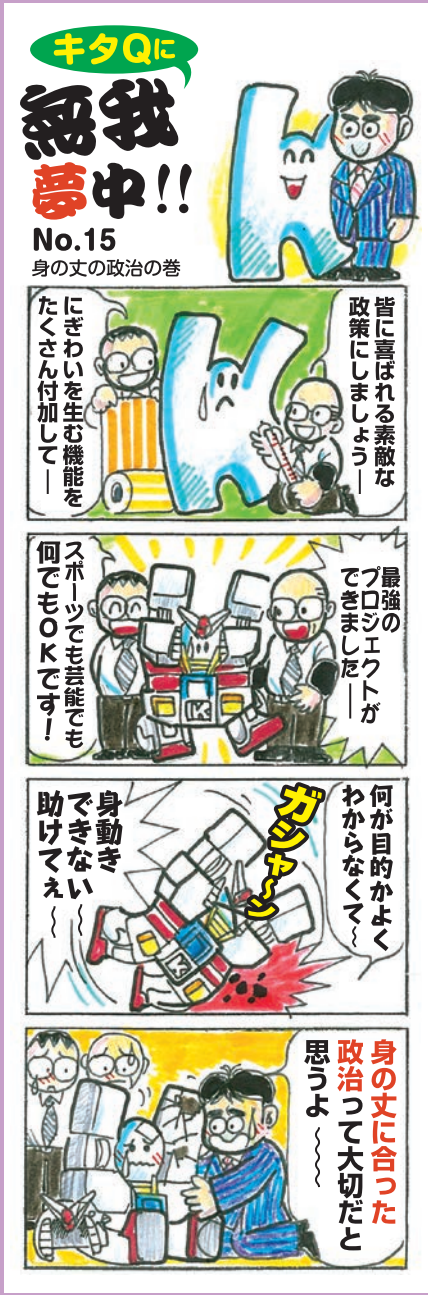
1日　黒崎文化交流拠点まちびらき
3日　臨時　市議会会派団会議
4日　三菱マテリアル九州工場視察
7日　党総支部常任幹事会
　　撥川ホタル祭り
8日　青年会議所　北九州ドリームサミット
　　ギラヴァンツvs愛媛FC　応援
9日　市議会　総務財政委員会
10日　高校野球応援
13日　市議会　会派団会議
14日　心豊かな少年を育てる市民大会
　　ホームレス支援機構シンポジウム
　　第2回党県連政策調査会
15日　陣原夏まつり
　　ゆるキャラvs トロッコ列車手伝い
　　ギラヴァンツvs ザスパ草津　応援
18日　市議会臨時議会
19日　　〃
20日　　〃
　　金融円滑化法期限切れに伴う説明会
　　党県連団体交流委員会
　　黒崎祇園山笠
21日　八幡西まつり
　　衆議院議員　緒方林太郎国政報告会に参加
　　岩元県議会議員　県政報告会準備会
22日　洞南四地区山笠競演会
23日　党総支部常任幹事会
26日　市議会　総務財政委員会
28日　市議会　会派団会議
29日　KID's Work　会合
30日　市内校庭芝生化事業状況視察
31日　市議会政策立案事業　講演会

8　月

1日　鳥取視察
2日　鳥取視察
3日　鳥取視察
4日　国政・県政・市政報告会
5日　NPO法人KID's Work馬島キャンプ
　　わっしょい百万夏まつり
7日　陸上自衛隊小倉駐屯地市民との夕べ
9日　サンアクアTOTO視察
　　市議会　会派団会議
11日　森下町盆踊り
13日　穴生児童館　盆踊り
16日　北九州市行財政調査会を傍聴
17日　北九州市民暴力追放総決起集会
　　陣山地区納涼盆踊り大会
18日　浅川台夏まつり
19日　ゆるキャラvs トロッコ列車手伝い
20日　市議会　総務財政委員会
　　市議会　会派団会議
　　北九州海の幸山の幸を愛する会
21日　三越伊勢丹ソレイユ　視察
　　ダイヤログインザダーク　視察
22日　スワンカフェ　視察
24日　市議会　会派団会議
27日　北九州市住居表示審議会
28日　八幡西区議員協議会
30~31日　東京へ陳情

9　月

1日　党県連　青年政治塾で講義
2日　紫川フェスティバル
　　先天性ミオパーチに関する講演会
3日　9月定例会　勉強会
4日　9月定例会　勉強会
5日　9月定例会　開会
　　9月定例会　会派勉強会
6日　9月定例会　会派勉強会
12日　9月定例会　本会議
13日　9月定例会　本会議
14日　9月定例会　本会議
16日　高塔山JAMフェスティバル手伝い
　　敬老会
17日　敬老会
18日　9月定例会　本会議・決算特別委員会
19日　9月定例会　決算特別委員会
20日　9月定例会　決算特別委員会
23日　敬老会
24日　市議会会派　政策審議会
　　9月定例会　決算特別委員会
25日　森ひろあき政経セミナー
26日　9月定例会　決算特別委員会　市長質疑
28日　9月定例会　決算特別委員会
30日　黒崎バイパス建設促進期成会＆祝賀会



「身の丈の政治」を考える

協働のあり方について

広がる「協働」の考え方

「協働」とは、地方自治においては、市民サービスを向上させる意味でまちづくりには欠かせないものとして近年その考え方が広がってきています。

その「協働」のあり方について、先日の市議会総務財政委員会において「北九州市協働のあり方に関する基本指針」の最終案が示されました。この基本指針とは、複雑・多様化する行政ニーズに対応し、さらに新たな課題へ対応をするために、民間団体やNPO、地域団体などが、行政と対等な立場で力を合わせ課題を解決しようとする考え方を、北九州市として示したものです。

行政が地域で事業を行おうとする場合、公平性を重視するあまり、どうしても画一的な対応になってしまいがちです。きめ細かく対応する必要がある場合や、地域の実情に合わせながら進めることが必要なケース、さらにこれまで行政が取り組んだことのないような先駆的な分野など、柔軟に対応することが難しいことが多くありました。

「協働」は、まさにこれまで行政としてきめ細やかに対応できていない分野などに、行政とNPOなどがそれぞれの力を合わせ取組むための**新しい手段**となるものとして非常に期待されます。

「協働」をすすめる上でのキーワードは

これからはいかに市民が「**主体的にまちづくりに参加できる**」形を作ることができるのかが、重要になってきます。

行政や、地域の自治組織などがどのような課題を抱えているのか把握すること、一方、NPOや社会企業、団体は、それに対してどのようなノウハウを提示し実行できるのかを把握すること。課題の解決のためには課題の把握とNPO等主体となる団体の能力の把握、それに加えこの2つのマッチングが重要になると考えられます。

私もこの点について、「協働」の主体となる両者の組み合わせが上手くできなければ、基本方針が絵に描いた餅になってしまうとして、この両者のマッチングについての取組みをしっかりと行なうよう議会において意見しました。

「協働」は効率化の手段ではない

「協働」を考える時に、行政が行う事業を単にNPOや企業などに委託するだけの道具にならないよう注意しなければなりません。

「協働」とは、それを行う両主体の能力や資源、ノウハウをそれぞれ補完し合うことではじめて目標が達成でき、結果として効率的に仕事が果たせると思います。

確かに行政の効率化が叫ばれています。だからといってこの「協働」を効率化のための道具にすることなく、豊かなまちを作るために、地域、企業、団体、住民一人ひとりがまちづくりに参加する、できるような意識を持たせる仕組みにすることで、自分のまちは自分達でつくるという「身の丈にあったまち」に更に一歩近づくのではないかと思います。

応援団発足!!

後援会が名称改め
応援団として再出発いたしました。

PROFILE

北九州市議会議員
大久保むが プロフィール

生年月日　昭和50年11月22日　現在36歳

経歴

枝光小学校・枝光北中学校(現枝光台中学校)・県立北筑高等学校を卒業
平成10年　九州国際大学　国際商学部　卒業
平成12年　北橋健治衆議院議員秘書
平成18年　北九州市立大学　法学研究科(大学院)入学
平成19年　大久保勉参議院議員秘書
平成20年　北九州市立大学　法学研究科　卒業

現在　民主党福岡県第九区総支部　常任幹事
ボランティア団体　KID's work(きっずわーく)　理事

■大久保むが事務所
〒807-0831
北九州市八幡西区則松2-9-2
Tel 093-863-5530　Fax 093-863-5531
http://www.mugamuga.net/
E-mail yahatanishi@mugamuga.net

◎この市政レポートは、市議会各派に交付される政務調査費と後援会費を用いて作成しています。◎重複して送付されたり、宛名変更がある場合は、お手数ですが大久保むが事務所までご一報ください。